

地球の木

♥地球上のすべての人たちと共に生きたい

「生きる力」を ともにはぐくむ

理事長 丸谷 士都子

2007年度は、地球温暖化、石油価格の高騰、食品の値上がりなどのニュースが新聞をにぎわした一年だった。グローバル経済に取り込まれた私たちの暮らしはますます厳しいものとなってきた。5月に起こったミャンマーのサイクロンと四川大地震は大きな衝撃を与えた。想像を超える大規模な自然災害に対し、国際社会の結束が必要とされるとともに、私たちが住んでいる地域の結束も求められよう。亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げ、一日も早い復興を願っている。

地球の木は「『生きる力』をともにはぐくむ」を標語に掲げ、海外支援と国内活動を行ってきた。カンボジアのタケオでは、少女たちが学ぶ職業訓練センターから、クメールシルクで作った名刺入れやブックカバーなどの試作品が届いた。少女たちと決めたブランド名「Hope of Phnom Chiso (プノム・チソーの希望)」の名のごとく、明るい未来が展望できるよう補佐していきたい。

ネパールの「幸せ分かち合いムーブメント」は、高校生や村人たちとの交流をだいにしながら、一步一步関係づくりを進めている。参加型のワークショップを行い、理解を得ながら、村人主体の地域課題の解決を目指す。



海のないネパールから来た二人は水族館に興味津々

CONTENTS

- 「生きる力」をともにはぐくむ……………1
- 地球の木ネパールスタディツアー'08報告……………2~3
- ラオスの葉草サウナ……………4
- 日本の皆さん私たちが作ったシルク小物です！……………4~5
- 紙しばい「デブラニ物語」あーすフェスタで初公開……………5
- ネパールのユースと語り合った10日間……………6
- 「ラオスってどんな国？」……………7
- 事務局の新スタッフ紹介……………7
- 活動日誌……………7
- INFORMATION……………8



支援地の村人たちと語り合う筆者

国内活動も活発な一年だった。地球温暖化をテーマにした連続講座「一歩ふみ出そう私のシンプルライフ」の講演会には、部屋に入りきれないほどの参加者が集まった。2回目のワークショップ「支援地の暮らし、私たちの暮らし」には、雪の日であるにもかかわらず多くの人が集まった。

2月には、ネパールSOARSのユースクラブから学生を招き、「ユース交流プログラム」を開催した。日本からのスタディツアーでは少数の学生しか参加できないのに対し、学校見学、ワークショップ、ホームステイなどを通して約300人の人々がネパールに触れ、ふたりの活動紹介から刺激を受けた。帰国後ふたりは、機会あるごとに日本での体験を発表し、大きな成長が見られたと聞いた。ユースクラブの活動にはずみがついたらこれほどうれしいことはない。

3月には、タマン族の村を訪ねる「ネパールスタディツアー」を行った。現地のおかあさんグループと村の夢を描くワークショップを実施した。多くの夢の中で最優先されたのは診療所だ。おかあさんたちができることとして、土地の提供、ボランティア作業、管理するグループの結成をあげた。とても具体的で前向きだ。人間にははかりしれない可能性があることを悟った滞在であった。

支援地の人たちの伝統的知識を尊重し、学び合いながら互いの地域の向上をめざす支援のあり方は地球の木の中で定着しつつある。さらに発展させるには、会員や一般の市民の大勢の参加が必須だ。より多くの人たちと情報を共有し、より多くの人たちと共に考えていきたい。

2008年度は「Bring a Friend キャンペーン」を展開し、地球の木の催しやボランティアにも、もうひとり友だちを誘う、といったように関心を持つ人を増やすことがねらいた。「幸せ分かち合い」の精神、つまり楽しい場、有意義な時間を共有することが継続につながることを信じて。

地球の木ネパールスタディツアー'08報告

(3/27~4/3実施)



風にたなびくタルチョー(旗)に迎えられて

労働に見合う幸福を～人々の選択

横川 芳江



カトマンズ空港で歓迎のスカーフをカマルさんに巻いてもらう

4月初めのネパールは、「制憲議会選挙」を控えた選挙運動の真っ最中でした。トラックや軽自動車に支持者が乗り、政党の旗を風になびかせて走り抜けたり、広場では演説を聞く多くの人々の姿が見られました。帰国後の4月10日にこれまで二度延期された選挙が無事に行われ、マオイスト(毛沢東主義派)が議席を増やす勢いです。

日本ではマオイストを紹介する時に必ず「武装集団の」と言う形容詞がつき、「悪者扱い」の情報が多いようですが、ネパール国内では現行の腐敗した政党への批判としても支持率は高く、集会への参加者も多いようでした。道路清掃や農業指導など生活に密着したサービスを行っているとかで、特に農村部で支持者が多いと聞きました。ネパールの人々の選択が善きものとして、市民社会の声を代弁するものであって欲しいと思います。

天まで届くような、あの壮大な段々畑を手仕事で耕し収穫している人々を思うにつけ、その労働に見合うだけの幸福をいっぱい受けて欲しいと感じます。そのためには今回の選挙によって良き統治が行われ、より豊かで安全で公平な社会が作られるよう、国際社会も見守る必要があると思いました。

昨年度から本格始動した地球の木新プロジェクト「幸せ分かち合いムーブメント」の現場は、首都カトマンズから75キロ離れた山あいのマンガルタール村。先住民タマン族が多く住む村です。「開発とは幸せを分かち合うこと」を信条とする参加型開発の専門家カマルさんらを現地パートナーに、文化を守りながら生活向上をめざす村づくりを、村人と一緒になって進めています。会員の皆さんにもこの「幸せ分かち合い」を体感してほしい。そんな思いで企画したスタディツアーには9名が参加し、村の人々にとっても大きな力づけになりました。さて、初めてのネパール、参加者の皆さんにはどのように映ったのでしょうか。スタディツアー報告書からの抜粋をお届けします。



シンプルな食生活と村人の体力

岡田 恵子

村では男性たちがバイオエネルギー(牛糞などを使ってメタンガスを発生させる)のために、地面を掘っている姿をよく見かけた。女性たちは大きな籠を背負い、土や作物を運んでいた。幅広の鉢巻のような紐を額に当て、底を細くした形の籠を支えている。私も背負って歩いてみたが、20キロはあるだろう。体力が自ずとつくはずだ。概して村人は細く、背筋は伸びている。朝仕事を終え、甘めのジンジャーティーを飲み、畑でとれたじゃがいもをふかしただの朝食だ。夕食のカレーには村でとれる空豆や水牛の肉を干したジャーキーが入っている。身土不二(しんどふじ)のシンプルな食生活と肉体労働が、彼らを健康にするのだろう。ただ、ステイ先の母親は60才だというのに前歯がほとんどなくなっていた。トイレや水場の数が少ないこと、ひどい土ぼこりなど、衛生面では問題があるのかもしれない。これらの改善が今後の課題だと思う。



ドッコ(かご)を背負ってみました

スタディツアー日程

3/27	成田発ーバンコク着	バンコク泊
3/28	カトマンズ着 ドゥリケルへ ネパール事情講座	ドゥリケル泊
3/29	マンガルタール村高校着 歓迎会 図書室見学(高校生との交流会) ピンタリ集落へ 集落散策	ホームステイ
3/30	ホストファミリーと仕事体験 ワークショップ(ピンタリ集落の五カ年計画立案) 交流会	ホームステイ
3/31	マンガルタール村高校へ 高校生とのワークショップ	ドゥリケル泊
4/ 1	バクタプル・カトマンズ観光 SAGUN事務所訪問 カマル宅にて夕食会	カトマンズ泊
4/ 2	カトマンズ発ーバンコク着	機中泊
4/ 3	成田空港にて解散	

今このときに 生を受けた 者同士…

岸 夏代

完成した図書室で新聞を見る



山々がどこまでも続くマンガルタール村にあるピンタリ集落は、よく手入れされた畑が狭いあぜ道に囲まれ、脇の水路には水が流れ、レンガつくりの土色の家屋が点在する美しい風景画のような場所である。村の入り口には仏塔、マニ車、仏画の施された門、風にたなびく色とりどりの旗が飾られている。チベット仏教を信仰するタマンの人々が暮らす村の波長は、「私たちは、場所は違ってもこの大なる宇宙に今このとき存在する人間同士なんだよね」という思いを、自然に湧き起こさせる。

ホームステイ先は村の女性グループの取りまとめをしているお母さんの家。夜は同じベッドで眠るのだが、就寝前になると、お母さんは私のふくらはぎから足先までオイルマッサージをしてくれた。おかげで心地よい疲れとともにぐっすり眠ることができた。なんというホスピタリティだろう。

毎朝水場で、スズ製の大きな水がめをピカピカに磨き、水を汲む。それを料理に使っているし、もちろん飲み水でもある。電気がないので夜は真っ暗。キャンドルナイトながら、早めに就寝。夜明けとともに鶏の鳴き声で起きる。風景の美しさにも驚いたが、村にモノが少なく、生活が本当に過酷なことにも驚いた。

圧倒的な自然の中で暮らす村の人々、その村の開発に携わる現地NGOの取り組み、それを見守り支援していく地球の木、立場は違いますが、今このときに生を受けた者同士が共に生きるためにすることは、やはり「分かち合い」なのだと思う。

私も長老、ワッハッハ

末吉 悦子



ステイ先の長老夫妻と共に

私のDNAは「うっとり」春霞み状態が好きなのですが、今回の「幸せ分かち合いスタディツアー」は、現実をガバチョと眼開かせてくれました。何より驚いたのは、カトマンズからステイ先のピンタリ集落まで、見渡す山々、頂上から麓まで棚田の景色が続いていたことです。何百年もかかって、それも裸足で耕し命を繋いできたのです。彼らはこれから先も生き延びられるでしょう。麦、豆類、にんにく、野菜、お米などを御馳走になりましたが、とてもおいしかったです。村の生活は本当にシンプルで、必要な生活用品、鍋、食器、調味料等が、一つ二つの木製棚に収められ、レンガで造られた家は数ヶ所、壁が風穴として空いていて、そこに必要な物が置かれていました。燃料は木々の枝。囲炉裏のようになっていて、煙いのなんのって大変。天井近くに金網がつるされ、肉をスモークできるようになっています。

私の宿泊先の長老は、在家ラマ(チベット仏教僧侶)。私に5人の孫がいると知り、隣に布の小さな座布団を用意して下さり、長老同士としてもなして下さいました。(奥様に悪いような気がしました)床は土のまま、もう固くなり石床となっています。ワラで編んだゴザが用意され、食事、お茶ときにはそれを敷くのです。家の戸は開いていて、親戚、そうでない村の方も立ち寄り、皆大きな声で本当によくおしゃべりします。家畜は犬、バッファロー、耳の長いヤギ、鶏が飼われています。犬はとても忠実に家を守り、散歩に行くときついてきてくれました。不思議なことに猫には出会いませんでした。

今とても幸せな気持ちで旅のことを思い出しています。



今度はあなたも!

村にとってもスタディツアー受け入れは初めてです。何ヶ月も前からお祭り騒ぎで準備を進めてくれました。村に数ヶ所しかないトイレも大掃除。11月の調査時より格段にきれいになっていました。ツアー後に届いたカマルさんからのメールです。

「先週の土曜日、ツアーの感想を聞きにまた村に行ってきました。ホームステイの大家族が集まってきて、とてもいい話し合いができました。日本人の皆さんと過ごすことができ、とってもとってもハッピーだと口々に言い合っていました。ぜひともまた地球の木の皆さんを村にご招待したいと言っています。」

今年度も2月にスタディツアーを予定しています。ぜひご参加を!

(ネパールチーム 関川 深子)

ラオスの薬草サウナ

ラオスの町なかに住む人々の癒しの場のひとつに、“薬草サウナ”があります。民家の一角にある小さな木造建物の中に、薬草を薪で焚いた湯気がたち込め、自然の薬草（ハーブ）の香りが充満しているサウナです。ラオス語で、「ホーグ・ホーム・ヤー」と呼ばれ、“良い香りの薬草蒸し風呂”という意味。5～6人がやっと入るような狭い部屋に、布一枚を巻いて半裸で入ります。ドアを開けると、湯気しか見えない真っ暗闇の中で、女性たちがポタポタと汗をかきながら、ベンチに座ってお喋りしています。「山の民」であるラオスの人達が森の恩恵を受けているなあと感じる場でもあります。

男性も入れる混浴サウナですが、20～50歳位の幅広い年齢層の女性たちでいつも賑わっています。サウナの中で体が温まると屋外に出て、皆それぞれ美容のために、タマリンド（マメ科の植物）やヨーグルト、蜂蜜、塩など肌に良さそうな様々な物を、顔や体に塗りつけます。水分補給に用意された薬草茶を飲みながらお喋りは絶えません。肌にタマリンドなどを塗る姿はとても真剣で、念入りです。常に日差しが厳しいラオスですが、女性の肌や髪がきれいであることを、何となく納得。そして、またサウナに入っては水浴びを繰り返して数時間過ごします。サウナの店主のおばさんも、「薬草は丁度いい？もっと入れる？」と尋ねては火を追加してくれて、その良い香りは絶えません。サウナの蒸気を鼻から吸って深呼吸しただけ、体も頭もスッキリで、リフレッシュできます。

外国人の私は、その場で出会った初対面の人から「どこで働いているの？」「家族はどこにいるの？」「何歳？」と大抵同じようなことを聞かれて、話が始まります。役所の受付の仕事をしているという若い女性や、売店の店員で店の前を通る私をよく見かける、と話しかけてくる女性など、気さくにお互いのことを話す和やかな雰囲気です。先日知り合ったケオおばさんは、3人子供がいて、清掃の仕事を掛け持ちしているという人で、「今さっき、小学校の清掃の仕事を終えて来たの。午後はここで一息ついて、夕方には病院の清掃の仕事に行くのよ」と、サウナは唯一のくつろぎの場だというように話していました。

サウナ入浴料は7,000キップ（約85円）。町で暮らす女性達が仕事の合間に時々やって来ては体を癒すのです。天然ハーブの香りと、パチパチと薪で焚かれた湯気の熱さで汗をかき、庭に茂ったヤシの木の下で水浴びをしていると、森の恵みに触れた贅沢な気分が味わえます。サウナで汗を流すと共に、かわるがわるやって来る地元の人達とお喋りすること自体も嬉しいのひとつ。地域の人達のことを知る機会にもなって、私も週末の夕方に通う場になっています。（JVCラオス事務所 尾崎 由嘉）



薬草と薪が焚かれるサウナ小屋の裏

ラオス 森林保全・自然農業支援

日本の皆さん 私たちが作ったシルク小物です！



手作りのグッズを手に、裁縫教室のチーア先生と生徒たち

地球の木では、2007年からカンボジアのタクオで、女子の職業訓練センターへの支援を始めた。タクオは織物の産地として有名で、緞（かすり）の発祥地とも言われている。センターで「売れるモノ作り」ができるように、地球の木は品質やデザインなどのアドバイスをしながら、センターで織られたショールや共同開発したシルク小物を購入し、販売する。

2月18日～22日、乾季のカンボジアを訪れた。昨年の11月の訪問時に一緒に話し合いながら作ったシルク小物は、訪問が予定より早まったため、ブックカバーや名刺入れなど、一部のみ完成していた。ミシン3台、生徒3名で始めたクラスでは、たくさんの製品を作り上げるのは難しいのだろう。初めての製作ということもあるのか、ぱっとみとところ丁寧に作られている。まずは、ほっと一安心。そして発注書どおりのサイズに作ってあるか、角の始末がちゃんとしてきているか、平行に縫ってあるかなどメジャーや定規を片手に検品していく。細かいところをチェックしていく私を、先生は苦笑いしながら見ている。「日本人はなんて細かいんだろうと思っているだろうなあ……」と考えながらも、心を鬼にして検品をおこなう。同じ型でも生地を使い方で裏表・縦横が間違っていたり、生地の色のある部分が違っていたり、よく見ていくと発注書どおりにはできていないところも多い。「今回は購入するけど次回からは買えないからね」と細かく、どこが違っているかを説明する作業が続いた。今は、試験的段階で発注量も少ない。この段階でしっかりと、辛抱強いやりとりが必要だ。ミシン油のしみがついたものに関しては「これはあなたの方のミスだから買えない。これからは気をつけてね。」と少し厳しく返品した。先生、生徒たちは、ため息をつきながらこれまで私の話を聞いていたが、「日本で、地球の木の人が、皆の作ったシルク小物を楽しみに待っているのよ。頑張って作ってね。」という、うれしそうに大きくなつてくれた。作っている生徒たちは全員、センターのすぐ近くのソテウイさん（センターのスーパーバイザー）の家で寝泊りしている。家が遠くて通えなかったり、家にいられない子どもたちだ。小物を売って手にするお金はどうするかと聞いたら、全員がそのまま親に渡すという。作品を手に記念撮影をした。手には、センターで縫い方を習ったシルクの小物。また、遠い日本でも自分たちの作った物を待っていてくれるということが生徒たちの大きな励みになる。記念撮影をした生徒たちはとてもいい笑顔をしていた。（クメールシルクチーム 筒井 由紀子）

カンボジア職業訓練センター支援

紙芝居「デブラニ物語」 あーおフェスタで初公開！

「デブラニ募金」の名称で親しまれているネパール極西部の少女デブラニの成長の過程を物語にした「デブラニ物語」の制作に一昨年から取り組んでいました。横浜インターナショナルスクールのボランティアチームの力を借りて昨年、英訳が完成し、SOARSに内容の確認を行うことができました。この「デブラニ物語」を紙芝居にして、識字教育の普及に使えないものかと検討した結果、広報チームの斎藤和子さん（会報のイラスト担当）に協力をお願いし、2月の現地調査に同行していただきました。出来上がった斎藤さんの絵は、どれも登場人物たちの表情が生き生きとしていて、風景描写も美しく、わくわくする作品です。ネパールでの10年間にわたる教育支援の中で実際に起こった出来事がちりばめられた「デブラニ物語」の紙芝居がネパール語に翻訳され、現地で披露する日がくるのが楽しみです。国内でも地球市民教育に使っていきたくと思っています。



第2、第3のデブラニが誕生していた！ ～極西部カイラリ郡の識字教室卒業生から会員の皆様へ～

「デブラニ物語」のデビューを喜んでいた矢先、卒業生からの手紙の日本語訳が出来上がりました。読んでびっくり！デブラニに続く少女たちが続々と誕生していたのです。（ネパールチーム 乳井 京子）

今から10年前に始まった識字教室は、私の人生で一番意欲を掻き立てる学びの場でした。識字教室に参加できて本当によかったと思います。あなた方は、開発途上国の「貧困ライン*」よりも低い社会で暮らす私たちのような者のために識字教室を始めて下さいました。識字教育のおかげで、私たちは昔からの因習を破ることができて、本当によかったです。

私が4、5歳の頃、他の子どもたちが学校に行くのを見て、私も彼らのようにカバンを持って学校に行きたいと思いましたが、叶いませんでした。その頃は誰もが「こんな貧乏人が学校に行ってもどうする？学校に行かないで、働けば食べられる」という古くからの考え方をもっていました。男女の差別があり、男の子は学校に行かせるが、女の子は家の手伝いをすると決まっていたのです。私も12歳までは学校に行けませんでした。私はどうしても学校に行きたい、どうやったら行けるか、ずっと考え続けていました。その時は、識字教室のことを知らなかったのです。

識字教室に参加して、いろいろなことを知り、両親に「勉強させてください」とお願いしました。その時、両親も女の子に勉強が必要であることを少し分かってきました。私は識字教室を終えた後、小学校3年生に編入し、5年生までずっと一番でした。その小学校は5年生まででしたので、タラナガルの、高校まである学校に転校して一生懸命勉強し、SLC（高校卒業資格試験）に合格しました。そして今は、ゴタゴリ大学の1年生（11年生）に在籍中です。

カルバナ・チョーダリ

*1人当たり年収270ドル（1日1ドル）の収入しか得ていない状態。（世界銀行の定義）。世界の貧困人口は10億人以上で、5人に1人が該当する。

ネパール 教育支援

ネパールのユースと語り合った10日間！ 日本・ネパールユース交流プログラム (2月21日～3月1日)

SOARSのHelpful Student Clubの学生たちを招き、様々な企画を実施しました。来訪したのは、ユースクラブ会長で環境学専攻のスニタ・タバ・マガルさん(19歳)と書記で獣医学専攻のススマ・K.C.さん(20歳)。イマドール村で教育や環境をテーマに地域活動をしています。

国際交流基金「日本・ネパールユース交流プログラム」は国際交流基金の助成を受けています。

スニタさん

日本人は、親切で礼儀正しく、時間を守る、そして笑顔がすてき。日本は、清潔、緑が多く教育や設備が充実している。そんな印象を受けました。忙しい生活に日本を感じました。開発が進んでいないネパールから、発展した日本に来て、私たちも日本のようになれるはず、でもそのためにはものすごい努力が必要だと感じました。



私たちは、日本には何ひとつ問題はないと思いがちです。しかし、よく観察すると、技術の発展による失業があり、電気に生活の全てを頼っているといった問題点もあることに気づきました。日本は地球温暖化の責任を負う先進国のひとつですが、地球の木の皆さんが温暖化に関心を寄せ、何ができるか考えていることを知り、嬉しく思いました。



ススマさん

海外が初めてというばかりでなく、空の旅も初めてで飛び跳ねる思いでした。夢そのままの日本に到着しました。

いろいろな家庭にホームステイしましたが、どの家も、まるで自分の家にいるような気にさせてくれました。訪問した中学校と高校では、英語の読み書きはできるものの、英語を話せない生徒が多かったのは残念でした。また藤沢の日本大学の獣医学科と動物病院を見学し、動物のための設備のすばらしさに感動しました。

夢だった日本を自分の目で見る事ができたのは貴重な経験でした。地球の木のみなさんに心から感謝いたします。

夢だった日本を自分の目で見る事ができたのは貴重な経験でした。地球の木のみなさんに心から感謝いたします。

ホームステイ

意外にも、ススマが驚いたのはお墓でした。近くのお寺に案内した時「私、お墓を見たのは初めてです」と言い、「ネパールでは誰も墓を持たず、死者はみな灰にして川に流します」とのこと。これには私もびっくりしました。

最初は地球温暖化など環境問題に対する活動ぶりを熱心に語る彼女たちに圧倒される思いでしたが、始終陽気に笑い転げる彼女たちの明るさに心がなごみ、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。(県央 川又 タキ)



2-Day ワークショップ in 江ノ島

ユースクラブの活動記録や活動プログラムなどをパワーポイントを使って丁寧に紹介してくれました。分かりやすく、またこんな団体があるのだなと驚きました。自分たちの地域の生活を改善するべく、そして他文化の人々との交流をもつべく活動をしているというスニタさんとススマさんに頼もしさを感じ、素晴らしい活動だと思いました。ますますネパールという国がステキに感じました。

(高校3年 馬場 さやか)



ネパールにも日本にも、課題はたくさんあるが、まずは「楽しい」という気持ちがどんな活動をするにも大切だともう一度気づくことができて嬉しかった。

(ワークショップ発題者 清水 千絵)

ネパール報告・交流会

2人のパワーに元気をもらいました。直接会って交流することの大切さを改めて感じました。応援してきた若者たちが、自国の、それ以上に地球の将来(温暖化問題)を真剣に考えている事が伝わってきました。これからも応援していきたいと思いました。(川崎北 豊田 由紀子)

中央大学 ユースフォーラム

*ネパールについて知ることができてよかった。日本のことも見つめなおすことができた。

*日本について知ろうという2人の姿勢が印象的でした。



企画したのは、「ネパールYOUTH交流スタディツアー'07」に参加した学生たち

日程表

- 2月22日：平楽中学校で生徒と交流
地球の木事務所、寿町さなぎ達、神奈川ネットワーク運動などを訪問
- 23日～24日：2-Day ワークショップ in 江ノ島
- 25日：藤沢市ごみ処理場、日大藤沢高校、日本大学生物資源学部を訪問
- 26日：地球の木ネパール報告会・交流会
- 27日：「中央大学 ユースフォーラム」に参加
- 28日～29日：東京見学

たくさんの人が集った 地球の木・JVC共催イベント 「ラオスってどんな国？」



皆で力をあわせてタムタム(たたく)

5月にしては冷たい雨の10日(土)午後、天井の高い由緒ある建物、横浜市開港記念会館の会場に入ったら、ちょっとびっくり。何だかいつもと違うのだ。見知らぬ参加者がおおぜい楽しそうに始まるのを待っている。

「今、ラオスという国は、アジアの中でも最後の未知の国といったイメージで人々を惹きつけているようです。このイベントは、料理を入り口に、ラオスという国を知ってもらい、JVCや地球の木の活動にも関心をもってもらうと企画し、積極的に宣伝もしました。この日集まったのは約50名、子ども連れから大学生のグループ、夫婦、年配者まで、幅広い層の人たちでした」と、地球の木ラオスチーム。

集いは、ラオスの概要を知るクイズから始まり、すぐに、その日の目玉「実際にみんなで作ってラオス料理を食べる」に進む。シンプルな材料と手順の「タムマークワン(パパイヤサラダ)」はパパイヤをにんじんに代えて作ったが、エキゾチックで不思議なおいしさ。大きな鉢に、細切り人参、にんにく、とうがらし、ミニトマトを入れ、調味料のレモン汁、ナンバー(魚醤油)などを加えたら、杵とスプーンを使って混ぜるように軽くたたいて全体をなじませるのがコ

ツだ。5つのテーブルには、ラオスの人たちの主食である蒸したもち米(カオニャオ)も、青々としたバナナの葉に盛り付けられて配られた。独特の辛みそをつけると大変おいしい。後半はJVCラオス駐在員の尾崎由嘉さんより、カムアン県で1993年から行ってきた森林保全と自然農業普及のためのプロジェクトについて、現地駐在ならではの生き生きとした報告があった。

参加者に書いてもらったアンケートから見えてくるのは、ラオスというアジアの隣国に興味を寄せ始めた人たちの温かい気持ちだ。「もっと知りたいと思った」「将来何らかの形でラオスの教育問題に関わっていきたい」「スタッフの人たちがラオスは豊かだと言っているのが驚いた」「現地報告に興味深かった。以前行って不思議に思ったことのいくつかを理解することができた」などなど。

(広報チーム 斎藤 和子)



事務局の新スタッフ紹介 どうぞよろしく

今年の2月から、新しくスタッフとなった池田真貴さんです。

主に収益事業を担当します。

地球の木に関わるようになってまだ日は浅いですが、ラオスやカンボジアの現状、地球温暖化のことなど、様々なことを学んでいます。それは日常生活を何気なくすごしているのでは、なかなか気付くそうで気付けない、とても考えさせられることです。家でも子どもたち(小学生二人)と今までしなかったような話を自然にするようになりました。これからも、どんどん「考えて」いければと思います。事務所でもたくさんの方々とお会いできるのが楽しみです。

活動日誌 (3月～5月抜粋)

- | | | | | |
|---------|---|------------------------|--|----------------------------------|
| 3月 1日 | DEAR全国ネットワーク会議参加
地球の木サロン「バッチフラワーレメディ」
ネパールユース帰国 | 16日 | 地球の木サロン「Tea & Talk」 | |
| 4日 | 第10回理事会 | 18日 | 監査② | |
| 8日 | 地球の木サロン「エッセイ修行」 | 19日 | ネパール「幸せ分かち合いムーブメント」翻訳チーム説明会 | |
| 9日 | ネパールスタディツアー事前学習会①
茅ヶ崎市民活動フォーラム'08参加(湘南ランチ) | 20日 | 地球の木サロン「ハングルに親しむ」 | |
| 11日 | 地球の木サロン「実践英会話」 | 23日 | ネパールスタディツアー事後ミーティング | |
| 13日 | 第9回ランチ連絡会
ネパール「幸せ分かち合いムーブメント」調査報告会 | 24日 | 地球の木サロン「実践英会話」 | |
| 15日 | 地球の木サロン「ハングルに親しむ」 | 26日 | 第13回理事会 | |
| 17日 | 全プロジェクトミーティング | 26日 | 小田原センターまつり出店(西湘ランチ) | |
| 19日 | 第11回理事会 地球の木サロン「Tea & Talk」 | 5月 4日 | 横浜インターナショナルスクールフードフェスタ出店 | |
| 20日 | ネパールスタディツアー事前学習会② | 10日 | 「ラオスってどんな国？」JVC現地報告会(尾崎由嘉さん) | |
| 22日 | 地球の木カフェ | 13日 | 第14回理事会 | |
| 25日 | カンボジア&ネパール調査報告会 | 14日 | 地球の木サロン「実践英会話」 | |
| 26日 | 地球の木サロン「実践英会話」 | 17・18日 | あーすフェスタかながわ2008出店
「南北コリアとかながわのともだち展」企画・展示 | |
| 27日～4/3 | ネパールスタディツアー(マンガルトール村) | 21日 | 地球の木サロン「Tea&Talk」 | |
| 4月 8日 | 第12回理事会 | 22日 | 鎌倉市民活動センターまつり出店(三浦ランチ) | |
| 9日 | 地球の木サロン「実践英会話」 | 22日 | 地球の木サロン「エッセイ修行」「ハングルに親しむ」 | |
| 11日 | 第10回ランチ連絡会 | 25日 | エコまつり in 港南台出店(なんぶランチ) | |
| 12日 | 地球の木サロン「エッセイ修行」「アロマテラピー」 | 茅ヶ崎教会バザー出店(湘南ランチ) | 28日 | 地球の木サロン「実践英会話」 |
| 14日 | 監査① | JVCラオススタッフ来日交流会(川崎ランチ) | 31日 | 第9回地球の木総会
ラオス・カムアンプロジェクト終了報告会 |

2008 南北코리아と日本のともだち展 絵とメッセージでつなぐ日本と朝鮮半島

今回はともだちの輪をさらに広げる「わたしの友だちを紹介します！」がテーマです。「近くて遠い」と言われる朝鮮半島の子どもたちが、ともに平和をつくる仲間になる……そんな空間にあなたもぜひいらしてください。

■絵画展

日 時：6月24日(火)～29日(日)
・平日 12:30～17:30 ・土日 10:00～17:30

場 所：こどもの城(青山) 1Fギャラリー

■ワークショップ(韓国から来日したともだちと)

日 時：6月28日(土) 10:00～15:30

場 所：東京都児童会館(渋谷) 4F講堂

かながわ国際協力フォーラム2008

国連ミレニアム開発目標をテーマとした講演会、分科会。神奈川県内のNGOの活動について知り、話し合う場です。

日 時：7月5日(土) 10:30～16:30

会 場：JICA横浜

プログラム：基調講演

第1分科会「女性が輝く社会に」

第2分科会「感染症のない世界へ」

第3分科会「地球環境を取り戻すには」

第4分科会「貧困から解放されるために」

全体会

主 催：横浜NGO連絡会(YNN)

協 力：JICA横浜

参加費：YNN会員 1,000円(予定)

オープンオフィス 地球の木カフェ 「トンボ玉でペンダントを作ろう！」

今回は夏にぴったりな、トンボ玉を使ったペンダントを作ってみませんか? ご参加をお待ちしております。ラオスやカンボジアなどの支援地のグッズ、地球の木カレー、コーヒーや紅茶などのお飲み物も用意していますので、どうぞお越しください。

日 時：7月18日(金) 11:00～18:00

第1回トンボ玉講習会 11:00～

第2回トンボ玉講習会 14:00～

参加費：1,000円(トンボ玉製作材料費)

場 所：地球の木事務所(JR関内駅南口下車徒歩1分)

申 込：地球の木 TEL 045-228-1575

港南台国際協力まつり

せかいの種、みつけた!

横浜NGO連絡会の会員団体と、港南台で活動をする国際協力団体がブースを出します。

テント村に屋台や民芸品、雑貨が並び、踊りなどのショーもあります。夕涼みがてらでかけてみませんか?

日 時：7月26日(土) 27日(日) 15:00～20:00

場 所：港南台テント村(港南台駅前)

ミャンマーサイクロン被害 緊急救援募金のお願い

5月2日から3日未明にかけて、大型のサイクロンがミャンマーを直撃し、首都ヤンゴンおよび中南部一帯に大きな被害が発生しました。被災者は、家を失っただけでなく、猛暑の中、飲料水や生活用水、食料などが不足するといった危機的な状況におかれています。

地球の木では横浜NGO連絡会(YNN)メンバーの「地球市民ACTかながわ」を通して、ヤンゴン管区僧院孤児院を中心とした緊急支援に協力します。

皆さまの温かい募金をお願いいたします。(詳細は同封のチラシをご覧ください)

口座名：00260-6-14129

加入者名：特定非営利活動法人 地球の木

「ミャンマーサイクロン」とお書きください

* 中国四川大地震について

「地球の木緊急支援行動指針」では、現地でも活動するNGOを通して支援をおこなうことになっています。今回の中国四川省大地震では、この指針に基づいた適切なNGOを現時点で見つけることができていません。従って、地球の木では、今回この地震被害に対する「緊急の支援」は見送ることにいたしました。

湘南ランチ企画 みんなで作ろう ハロハロ!

夏休み子どもたちとハロハロを作ります。そしてそのハロハロの国フィリピンのことも楽しくいろいろ学びましょう。

日 時：8月1日(金) 10:00～12:00

場 所：生活クラブ茅ヶ崎センター

会 費：500円(親子二人)

300円(一人参加)

対 象：小学生とその保護者

共 催：湘南ランチ

生活クラブエッコ広場

ブルメリアの共済

申 込：地球の木事務所 TEL 045-228-1575



つるみオープンカフェ

地球の木とうぶは今年も、地球の木の紹介と支援地のグッズを販売します。様々なNGO団体が、アジア、アフリカのアクセサリー、工芸品、コーヒー等を販売し、ミニステージでは民俗音楽の演奏があったり、楽しい一時を過ごせますよ。駅から1分。是非、お越しください。

日 時：8月24日(日) 11:00～16:00

場 所：JR鶴見駅西口広場

地球の木サロンは、いつからでも参加できます。和気あいあいと楽しく学んでいる仲間にあなたも参加しませんか? 「こんな企画をやってほしい!」も募集しています。事務局までお問合せください。

★ボランティア募集!
発送作業、イベント手伝いなど

